

『 処 暑 便 り 』 ～後半の講座へ折り返し～



後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

2学期が始まりましたが、依然として新型コロナウイルス感染症対策を万全にとりながら、学校教育活動を行なうことになり、学校現場では毎日が少しも気を抜くことが出来ない状況にあると推察致します。

6月から8月中旬にかけて18の研修講座が終了しました。会場の関係やオンライン研修があるのかどうかという件で、先生方には大変ご迷惑をおかけしたと思います。私の研修講座の開催形態に関する考えは、基本は「集合研修」です。そして、本年度は「授業実践を通じた研修に還る」というテーマで実施しております。お互いに顔をつきあわせ、各自の持っている課題や悩みを共有し、解決して行くという研修を目指しています。

これまで、授業会場を提供して頂きました岩内町立岩内東小学校（学習指導-授業づくり講座）、余市町立大川小学校（外国語科・外国語活動-中級講座）、寿都町立潮路小学校（へき地・複式教育講座）、倶知安町立倶知安中学校（英語科及び保健体育科講座）、京極町立京極中学校（社会科講座）、小樽市立朝里小学校（算数・数学科講座）、ニセコ町立ニセコ小学校（外国語科・外国語活動-初級講座）の各学校の校長先生はじめ、諸先生方には大変快く応対してくれましたことに感謝申し上げます。特に、朝里小学校の遠藤校長には校内研修と抱き合わせて、全職員が参観して頂いたことは本当に嬉しい限りです。

後半の研修講座もまん延防止等重点措置が適用されない限り、当センターか授業会場校で開催致します。どうか、ご理解の程よろしくお願い致します。

私は講座の閉講式に『深沈厚重』などの、講座の内容とは視点を変えた話をしています。『人生の方程式』という話をしたときに、特別支援教育講座の受講者の反応が大変良かったことに驚きました。みんな真剣な眼差しで話を聴いて、何とか答えを見つけ出そうとしているのです。3時間の研修講座で頭脳が疲れ切っているのに、本当に恐縮したところです。他の幾つもの講座でも同様のことが見受けられます。この姿こそが後志管内教職員の子どもに対する姿勢そのものだということを感じました。

最後に、これまでに終了した講座の中から、特徴的な受講者の声を挙げてみます。

- 「ミドルリーダーに求められる力について、講義や他校の先生方の意見を聴くことで、自分がどうあるべきかが、少し明確になった気がします。非常に有意義なお話が聞けました」
【ミドルリーダーによるカリキュラム・マネジメント】
- 「自立活動の授業を構築する上で、自分に足りていなかったのは、「児童の同意」、「将来を見据えた視点」の2つだと分かりました」
【特別支援教育】
- 「短い時間でも直接会って話したり、授業を見たりすることがとても刺激になりました。今後も参加していきたいです。オンラインばかりだったため今回の講座とても楽しかったです」【学習指導-授業づくり】
- 「自分の行っている実践が時代に合っていないような気がして悩んでいます。今後、更に研修深めていくために、実践面で算数科教育の全国的な流れなどを知りたいです。生で授業を見て学ぶことが自身の授業を見直す切っ掛けとなります」
【算数・数学科】
- 「申込み当初はオンライン講座があるという書き方だったように思います。その体制で考えていましたので、かわる可能性もしくは講座の形がかわるのであれば、申込みの段階で知りたかったです」
【へき地・複式教育】



(外国語科・外国語活動・中級講座より)

(R4.8.23記)

